

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10360

研究課題名(和文)費用対効果を含む多様な価値基準を統合した新たな医療政策意思決定支援システムの開発

研究課題名(英文)Development of the new healthcare decision support system integrating multiple value-based criteria including cost-effectiveness

研究代表者

下妻 晃二郎(Shimozuma, Kojiro)

立命館大学・生命科学部・教授

研究者番号：00248254

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：医療技術評価(HTA)における多角的価値評価方法の確立を目指して研究を行った。
1. non-life-threatening diseaseとlife-threatening diseaseに分けて日本の一般人と医療専門職が重視する価値基準を明らかにした。2. 多基準意思決定分析(MCDA)のEVIDEM frameworkの日本語版を開発した。3. 国際医薬経済・アウトカム研究学会(ISPOR)のtask-forceなどでまとめられたHTAで検討すべき多角的基準を紹介した。4. COVID-19患者と喘息患者の日本人の効用値調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本で制度として2019年に始まった医療技術評価(HTA)とそれに基づく医療資源配分における様々な課題を解決した。特に、多角的評価基準の提案と、日本人の効用値データを提供できた。
We resolved the various issues around the HTA and healthcare resource allocation in Japan.
Especially we proposed some multifaceted value assessment methods and the evidences for the utility values in Japanese.

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop an appropriate way of the multifaceted value assessment in health technology assessment (HTA). 1. We revealed the value criteria which thought much of by Japanese people and healthcare professionals divided for the non-life-threatening and life-threatening diseases. 2. We developed the Japanese version of the EVIDEM framework as one of the multi-criteria decision analyses (MCDA). 3. We introduced 'the Element of Value in Health Care' which was discussed and published by ISPOR task force. 4. We investigated the utility values in Japanese patients with COVID-19 and asthma.

研究分野：医療技術評価(HTA)

キーワード：多基準意思決定分析(MCDA) 医療技術評価(HTA) 医療資源配分 医療倫理 医療政策

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

従来、医療技術評価 (HTA) の分野においては、主に健康に関する価値と経済効率を基準として評価を行い、社会における医療資源配分の政策意思決定に用いてきた。しかし、評価対象の医療技術が、健康だけではなく介護 (例: 認知症治療薬) などを含めたより幅広い領域に役立つものが開発されるようになり、また貧富の差や健康格差が拡大し、欧州のみならず米国においても equity (衡平性) への配慮が話題に上りつつあるため、近年、HTA の評価基準に、健康だけではなく、より多角的な視点を取り入れる動きが増加しつつある。従来我々は、医療に携わる各ステークホルダーからの情報収集に基づく複数の基準を組み合わせる評価を行う、「多基準意思決定分析 (multi-criteria decision analysis (MCDA))」と呼ばれる半定量的な評価方法や、その代表的な評価ツールの一つである EVIDEM にも注目してきた。

一方、日本においては、2019 年から、HTA のうち、主に健康に関する効果と経済効率の評価結果の政策意思決定への応用が始まったばかりである。

2. 研究の目的

日本あるいは国際的な視点から、HTA の評価基準としてのより多角的視野からの基準や評価方法の確立を本研究の目的とした。

3. 研究の方法

以上の背景から、本研究では、日本における、あるいは国際的に、将来の多角的な評価基準による HTA が可能となるよう、その基礎となるデータの蓄積や方法の確立を目的とした。

主に以下の 4 点に関する研究を行った。

- (1) 日本の一般人および医療専門職が重視する評価基準の重みづけ
- (2) EVIDEM framework の日本版開発と日本における実施可能性の検討
- (3) 多角的評価基準に関する学会などの最新動向を調査
- (4) 日本における様々な疾患領域の HTA の精緻化を目的とした、日本人の COVID-19 や喘息患者の効用値 (utility value) の調査

4. 研究成果

(1) 日本の一般人および医療専門職が重視する評価基準の重みづけ

これは、本研究班の前段の研究班の成果の確認や評価の作業とも重なるが、がんなどの life-threatening disease における、薬剤の償還可否の判断に関わる評価基準 (criteria) の選定と重みづけ調査を、一般人と医療専門職 (医師、薬剤師、看護師) を対象に行った結果と、慢性疾患などの non life-threatening disease における、上記と同様の調査の結果をレビューした。文献調査に基づき 3 名の研究者パネルによってまず 26 個まで基準の絞り込み、次に医師、薬剤師、看護師各 100 人、一般人 400 人を対象に web 調査を行った結果は、「自己負担額」「副作用」「症状緩和」「費用対効果」「生産性損失」「生存期間」「社会的便益」が、疾病領域と職種横断的に相対的に重要な基準であった。Life-threatening disease ではこれらに「予算影響」も重要な基準に加わった。また、職種別の特徴としては、一般人と看護師は「症状緩和」が、医師と薬剤師は「費用対効果」に重きを置いていた。

(2) EVIDEM framework の日本版開発と日本における実施可能性の検討

日本における実施可能性を検討する目的で、日本語版の開発をまず行った。

次に、具体的な血液癌治療薬を想定したイタリアの研究を参考に、血液癌患者 382 人と、血液癌専門医 243 人を対象とした評価基準に関する web 調査をまず行った。決められた 13 個の基準のうち、両者ともに「重症度」の重要度が最も高く「非医学的な費用」の重要度が最も低かった。一方、調査対象者に提示する疾患や治療のシナリオの翻訳までは進めたが、コロナ禍の影響および、疾患のシナリオが患者には理解困難である可能性が指摘され、最終結果の分析までは達成できなかった。一方、評価基準に関する重み付け方法と価値関数についての基礎的検討も行った。

(3) 多角的評価基準に関する学会などの最新動向を調査

近年、米国の医療経済学者や米国臨床腫瘍学会、あるいは医療用製品の産業界を中心としたグループが、最初は米国のみ動きであったが、その後国際医薬経済・アウトカム研究学会 (ISPOR) の本体の task force に格上げされ、その中で欧州の学者も加わって議論を重ね、コンセンサスに基づく複数の多角的価値基準の議論の結果をコンセンサスとして公表している。

そもそも、政策意思決定に関する学問であるので、どのような政治的イデオロギーによって医療資源配分を行うか、という基本的な立場とそれに関連して、どのようなステークホルダーの意思がそれぞれのくらしい反映されるか、によって、本研究の結果は変わりうると思われる。

より具体的に解説すると、HTA を応用した政策意思決定においては、 効率性の追求と 公平性の確保、が元来重要である。 の評価、すなわち、費用効果分析における効果(QALY)の指標に、健康以外の価値を含めるか、含める場合の価値の範囲や評価方法が議論になっている。例えば、quality weight に従来の健康効用値に加え、医薬品の利便性である process utility を加味する方法が提案されている。また、近年開発が盛んな認知症の治療薬の評価においては、効果と費用の両方に、介護に及ぼす影響の評価を入れるべきとの考えがある。しかし現時点ではいずれも提案と試みにとどまり、国際的にも手法のガイドラインが発出されるには至っていない。

一方 の確保においては、従来行われてきたステークホルダーによるコンセンサス作り、multi-criteria decision analysis (MCDA)のような半定量的評価法、に加えて、近年は、上記したように、米国を中心としたグループにより、Elements of Value in Health Care (いわゆる Value Flower) として、新たに諸価値が提案された。従来から HTA に用いてきた「費用」, 「quality-adjusted life year: QALY」, に加えて、「生産性」, 「医療遵守改善因子」, 「不確実性の減少」, 「伝染病恐怖」, 「保険の価値」, 「重症度」, 「希望の価値」, 「将来の期待利益価値」, 「衡平性」, 「科学的波及効果」が検討されている(注: 欧州の HTA などではすでに、「衡平性」や「重症度」は考慮されている)。

(4) 日本における様々な疾患領域の HTA の精緻化を目的とした、日本人の COVID-19 や喘息患者の効用値(utility value)の調査

患者や一般人の健康価値を日本の HTA により反映させるために、日本における COVID-19 患者の効用値(utility)に関する一般人を対象とした web 調査と、喘息患者を対象とした EQ-5D や QOL/PRO の web 調査を行った。前者は調査がほぼ終了し、後者は計画立案まで本研究班の期間内に済ませることができた。COVID-19 の調査結果は、論文化に先立ち、共同研究者である新潟医療福祉大学教授である能登真一先生により、2024 年 6 月に米国 Atlanta で開催された、ISPOR での発表が予定されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 39件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 30件）

1. 著者名 Kaneyasu T, Saito S, Miyazaki K, Suzukamo S, Naito M, Kawaguchi T, Nakajima TE, Yamaguchi T, Shimozuma K	4. 巻 22
2. 論文標題 Perceptions regarding the concept and definition of patient-reported outcomes among healthcare stakeholders in Japan with relation to quality of life: a cross-sectional study	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Health Qual Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12955-023-02224-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Maeda T, Moriwaki K, Morimoto K, Mo X, Yoshioka T, Goto R, Shimozuma K	4. 巻 40
2. 論文標題 Cost-effectiveness Analysis of Nivolumab Plus ipilimumab Combination Therapy as First-line Treatment for Advanced Renal Cell Carcinoma in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Value Health Reg Issues	6. 最初と最後の頁 118-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.vhri.2023.11.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kaneyasu T, Hoshino E, Naito M, Suzukamo Y, Miyazaki K, Kojima S, Yamaguchi T, Kawaguchi T, Miyaji T, Nakajima TE, Shimozuma K	4. 巻 24
2. 論文標題 How to select and understand guidelines for patient-reported outcomes: a scoping review of existing guidance	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 BMC Health Services Research	6. 最初と最後の頁 335
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12913-024-10707-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 兼安貴子、鈴鴨よしみ、内藤真理子、宮崎貴久子、下妻晃二郎	4. 巻 50
2. 論文標題 患者報告アウトカムに関する論文を読み活用するための臨床家向けチェックリスト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 1317-1326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Xiuting Mo, Kensuke Moriwaki, Kosuke Morimoto, Kojiro Shimozuma	4. 巻 42
2. 論文標題 Cost-Effectiveness of First Line Nivolumab Plus Ipilimumab Combination Therapy in Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clin Drug Invest	6. 最初と最後の頁 599-609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40261-022-01168-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hoshino E, Moriwaki K, Morimoto K, Sakai K, Shimohata N, Konomura K, Urayama KY, Suzuki M, Shimozuma K	4. 巻 253
2. 論文標題 Cost-effectiveness analysis of universal screening for biliary atresia in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Pediatr	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpeds.2022.09.028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Izumi S, Hagiwara Y, Matsuyama Y, Shiroya T, Taira N, Kawahara T, Konomura K, Noto S, Fukuda T, Shimozuma K	4. 巻 21
2. 論文標題 Impacts of the preceding cancer-specific health-related quality of life instruments on the responses to the subsequent EQ-5D-5L	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Health Qual Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12955-022-02085-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 兼安貴子、白 岩健、船越大、村澤秀樹、斎藤信也、福田敬、下妻晃 二郎	4. 巻 51
2. 論文標題 非選好型アウトカム尺度から推計した健康状態効用値へのマッピング - ISPORアウトカム研究班報告実施基準 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 31-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤真理子, 宮崎貴久子, 鈴鴨よしみ, 兼安貴子, 下妻晃二郎	4. 巻 50
2. 論文標題 ヒト用抗がん薬評価に関するガイドラインの付録2 がん研究における患者報告アウトカム (PRO) 評価の使用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 1533-1547
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堺琴美, 星野絵里, 兼安貴子, 下妻晃二郎, 鈴鴨よしみ	4. 巻 50
2. 論文標題 ISQOLは患者中心アウトカム研究と効果比較研究で用いる患者報告アウトカム尺度のための最小基準を推奨する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 1939-1955
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星野絵里, 堺琴美, 兼安貴子, 下妻晃二郎.	4. 巻 50
2. 論文標題 がんのランダム化比較試験におけるQOLおよび患者報告アウトカム評価項目の解析についての国際標準 - SISAQOLコンソーシアムの推奨 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 2131-2148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮崎貴久子, 兼安貴子, 齋藤信也, 下妻晃二郎	4. 巻 51
2. 論文標題 患者報告アウトカム尺度のシステムティックレビューのためのCOSMINガイドライン	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 177-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hoshino E, Muto Y, Sakai K, Shimohata N, Urayama KY, Suzuki M	4. 巻 182
2. 論文標題 Age at surgery and native liver survival in biliary atresia: a systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Eur J Pediatr	6. 最初と最後の頁 2693-2704
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00431-023-04925-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakai K, Nakayama E, Yoneoka D, Sakata N, Iijima K, Tanaka T, Hayashi K, Sakuma K, Hoshino E	4. 巻 11
2. 論文標題 Association of Oral Function and Dysphagia with Frailty and Sarcopenia in Community Dwelling Older Adults: A Systematic Review and Meta-Analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cells	6. 最初と最後の頁 2199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/cells11142199	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Murata T, Ahn J, Li X, Nakamura R, Teerawattananon Y, Kun Z, Shafie AA, Valverde H, Lam H, Ng K, Nadjib M, Pwu RF, Nugraha RR, Chen YC, Fukuda T	4. 巻 32
2. 論文標題 Developing a New Region-Specific Preference-Based Measure in East and Southeast Asia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Value Health Reg Issues	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.vhri.2022.07.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama N, Uozumi R, Akiyama T, Koeda K, Shiroiwa T, Ogasawara K	4. 巻 17
2. 論文標題 Choking injuries: Associated factors and error-producing conditions among acute hospital patients in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0267430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0267430	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Nakamura-Thomas H, Yamaguchi M, Morikawa M, Moriyama Y, Fukuda T, Allan S, Malley J	4. 巻 31
2. 論文標題 Japanese preference weights of the Adult Social Care Outcomes Toolkit for Carers (ASCOT-Carer)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Qual Life Res	6. 最初と最後の頁 2143-2151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-021-03076-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara Y, Shiroiwa T	4. 巻 42
2. 論文標題 Estimating Value-Based Price and Quantifying Uncertainty around It in Health Technology Assessment: Frequentist and Bayesian Approaches	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Med Decis Making	6. 最初と最後の頁 672-683
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0272989X221079554	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawahara T, Taira N, Shiroiwa T, Hagiwara Y, Fukuda T, Uemura Y, Mukai H	4. 巻 31
2. 論文標題 Minimal important differences of EORTC QLQ-C30 for metastatic breast cancer patients: Results from a randomized clinical trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Qual Life Res	6. 最初と最後の頁 1829-1836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-021-03074-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibahara H, Shiroiwa T, Ishiguro M, Nakamura M, Hasegawa J, Yamaguchi S, Masuda Y, Sakamoto J, Tomita N, Fukuda T	4. 巻 23
2. 論文標題 Cost-effectiveness of 12 months of capecitabine as adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer: preplanned cost-effectiveness analysis of the JFMC37-0801 study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Eur J Health Econ	6. 最初と最後の頁 1159-1171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10198-021-01418-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama N, Kajiwara S, Shiroiwa T, Akiyama T, Morikawa M	4. 巻 14
2. 論文標題 Reported Incidents Involving Non-medical Care Workers and Nursery Teachers in Hospitals in Japan: An Analysis of the Japan Council for Quality Health Care Nationwide Database	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cureus	6. 最初と最後の頁 e22589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7759/cureus.22589	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama N, Kajiwara S, Tamaki T, Shiroiwa T	4. 巻 19
2. 論文標題 Critical Incident Reports Related to Ventilator Use: Analysis of the Japan Quality Council National Database	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Patient Saf	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PTS.0000000000001077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama N, Akiyama T, Sato H, Shiroiwa T, Kishi M	4. 巻 23
2. 論文標題 Comparison of physicians' and dentists' incident reports in open data from the Japan Council for Quality Health Care: a mixed-method study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Oral Health	6. 最初と最後の頁 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12903-023-02749-x	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara Y, Sawaki M, Uemura Y, Kawahara T, Shimozuma K, Ohashi Y, Takahashi M, Saito T, Baba S, Kobayashi K, Mukai H, Taira N	4. 巻 188
2. 論文標題 Impact of chemotherapy on cognitive functioning in older patients with HER2-positive breast cancer: a sub-study in the RESPECT trial.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Breast Cancer Res Treat	6. 最初と最後の頁 675-683
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10549-021-06253-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Hagiwara Y, Taira N, Kawahara T, Konomura K, Iwamoto T, Noto S, Fukuda T, Shimozuma K	4. 巻 42
2. 論文標題 Randomized controlled trial of paper-based at a hospital versus continual electronic patient-reported outcomes at home for metastatic cancer patients: does electronic measurement at home detect patients' health status in greater detail?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Med Decis Making	6. 最初と最後の頁 60-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0272989X211010171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hoshino E, Konomura K, Obatake M, Moriwaki K, Sakai M, Urayama KY, Shimozuma K	4. 巻 38
2. 論文標題 Direct health care cost of treatment and medication of biliary atresia patients using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatric Surgery International	6. 最初と最後の頁 547-554
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00383-022-05079-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morimoto K, Moriwaki K, Kaneyasu T, Nakayama H, Shimozuma K	4. 巻 28
2. 論文標題 Cost-Effectiveness of Nab-Paclitaxel and Gemcitabine Versus Gemcitabine Monotherapy for Patients with Unresectable Metastatic Pancreatic Cancer in Japan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Value Health Reg Issues	6. 最初と最後の頁 54-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.vhri.2021.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuki Takumoto, Takeru Shiroiwa, Kojiro Shimozuma, Hiroji Iwata, Masato Takahashi, Shinichi Baba, Kokoro Kobayashi, Yasuhiro Hagiwara, Takuya Kawahara, Yukari Uemura, Hirofumi Mukai, Naruto Taira, Masataka Sawaki	4. 巻 42
2. 論文標題 Cost Effectiveness of Trastuzumab With or Without Chemotherapy as Adjuvant Therapy in HER2 Positive Elderly Breast Cancer Patients: A Randomized, Open Label Clinical Trial, the RESPECT Trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical Drug Investigation	6. 最初と最後の頁 253-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40261-022-01124-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mizumoto M, Fuji H, Moriwaki K, et al	4. 巻 Epub
2. 論文標題 Proton beam therapy for children and adolescents and young adults (AYAs): JASTRO and JSPHO Guidelines	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Treatment Reviews	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ctrv.2021.102209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinichi Noto, Shota Saito, Takeru Shiroiwa, Takashi Fukuda	4. 巻 18
2. 論文標題 Estimation of Lifetime QALYs Based on Lifestyle Behaviors.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 9970
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18199970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Fukuda T	4. 巻 39
2. 論文標題 EQ-5D-Y Population Norms for Japanese Children and Adolescents.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pharmacoeconomics	6. 最初と最後の頁 1299-1308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40273-021-01063-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Noto S, Fukuda T.	4. 巻 24
2. 論文標題 Japanese Population Norms of EQ-5D-5L and Health Utilities Index Mark 3: Disutility Catalog by Disease and Symptom in Community Settings.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Value Health	6. 最初と最後の頁 1193-1202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jval.2021.03.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara Y, Shiroya T, Taira N, Kawahara T, Konomura K, Noto H, Fukuda T, Shimoizuma	4. 巻 18
2. 論文標題 Mapping EORTC QLQ-C30 and FACT-G onto EQ-5D-5L index for patients with cancer.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health and Quality of Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 354-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12955-020-01611-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata Tatsunori, Suzukamo Yoshimi, Shiroya Takeru, Taira Naruto, Shimoizuma Kojiro, Ohashi Yasuo, Mukai Hirohumi	4. 巻 23
2. 論文標題 Response Shift? Adjusted Treatment Effect on Health-Related Quality of Life in a Randomized Controlled Trial of Taxane Versus S-1 for Metastatic Breast Cancer: Structural Equation Modeling	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Value in Health	6. 最初と最後の頁 768 - 774
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jval.2020.02.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita S, Suzukamo Y, Kakimoto K, Uemura M, Kishida T, Kawai K, Nakamura T, Goto T, Osawa T, Yamada S, Nishimura K, Nonomura N, Nishiyama H, Shiraiishi T, Ukimura O, Ogawa O, Shinohara N, Ito A, Arai Y	4. 巻 28
2. 論文標題 Validation study of the Japanese version of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-Testicular Cancer 26 for patients with testicular cancer.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Urol	6. 最初と最後の頁 176-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.14422	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Moriwaki K, Uechi S, Fujiwara T, Hagino Y, Shimoizuma K	4. 巻 5
2. 論文標題 Economic Evaluation of First-Line Pertuzumab Therapy in Patients with HER2-Positive Metastatic Breast Cancer in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pharmacoeconomics - Open	6. 最初と最後の頁 437-447
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41669-020-00254-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下妻晃二郎	4. 巻 22
2. 論文標題 患者報告アウトカム (PRO)とは何か?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本クリニカルパス 学会誌	6. 最初と最後の頁 197-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita T, Moriwaki K, Hanaki N, Kitamura T, Yamakawa K, Fukuda T, Hunink MGM, Fujimi S	4. 巻 16
2. 論文標題 Cost-effectiveness of a hybrid emergency room system for severe trauma: a health technology assessment from the perspective of the third-party payer in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 World J Emerg Surg	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13017-020-00344-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto M, Aogaki K, Numata C, Moriwaki K, Matsuda Y, Ishii R, Tanaka I, Okamoto Y	4. 巻 16
2. 論文標題 Factors influencing the prescribed dose of opioid analgesics in cancer patients.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Opioid Manag	6. 最初と最後の頁 247-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5055/jom.2020.0578.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukuda H, Sato D, Moriwaki K, Ishida H	4. 巻 15
2. 論文標題 Differences in healthcare expenditure estimates according to statistical approach: A nationwide claims database study on patients with hepatocellular carcinoma.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0237316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0237316. eCollection 2020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noto S, Takahashi O, Kimura T, Moriwaki K, Masuda K	4. 巻 18
2. 論文標題 The relationship between preference-based health-related quality of life and lifestyle behavior: a cross-sectional study on a community sample of adults who had undergone a health check-up.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health Qual Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12955-020-01518-6.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wong ZS, Hoshino E, Ikegami N	4. 巻 33
2. 論文標題 A Cost Projection of Scheduled Physician Home-Visit Services in Japan: 2014 to 2064.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of aging & Social policy	6. 最初と最後の頁 692-707
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08959420.2020.1777835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomita S, Hoshino E, kamiya K, Yasuhiro O, Rahman M	4. 巻 28
2. 論文標題 Direct and indirect costs of home healthcare in Japan: A cross-sectional study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health & Social care in the community	6. 最初と最後の頁 1109-1117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hsc.12945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Ikeda S, Noto S, Fukuda T, Stolk E	4. 巻 -
2. 論文標題 Valuation Survey of EQ-5D-Y Based on the International Common Protocol: Development of a Value Set in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Med Decis Making	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0272989X211001859	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iwatani T, Hara F, Shien T, Sasaki K, Katayama H, Fukuda H, Shiroiwa T, Iwata H	4. 巻 51
2. 論文標題 Prospective observational study estimating willingness-to-pay for breast cancer treatments through contingent valuation method in Japanese breast cancer patients (JCOG1709A).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol	6. 最初と最後の頁 498-503
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyaa241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama N, Akiyama T, Hayashida K, Shiroiwa T, Koeda K.	4. 巻 20
2. 論文標題 Incident reports involving hospital administrative staff: analysis of data from the Japan Council for Quality Health care nationwide database.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Health Serv Res	6. 最初と最後の頁 1054
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara Y, Kawahara T, Shiroiwa T	4. 巻 23
2. 論文標題 What Is a Valid Mapping Algorithm in Cost-Utility Analyses? A Response From a Missing Data Perspective.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Value Health	6. 最初と最後の頁 1218-1224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jval.2020.03.020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T	4. 巻 36
2. 論文標題 Cost-effectiveness evaluation for pricing medicines and devices: A new value-based price adjustment system in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Technol Assess Health Care	6. 最初と最後の頁 270-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0266462320000264	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Noto S, Shimosuma K, Saito S, Fukuda T, Shiroya T, Ishida H, Iwatani T, Saito S
2. 発表標題 Relationship between Health-State Utility Values, Self-Efficacy, and Health Locus of Control in the General Population
3. 学会等名 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Morimoto K, Moriwaki K, Shimosuma K, Nakayama T
2. 発表標題 Cost effectiveness analysis of nivolumab plus chemotherapy VS chemotherapy in patients with advanced gastric cancer in Japan.
3. 学会等名 ISPOR (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 萩原 康博、白岩 健、平 成人、川原 拓也、此村 恵子、能登 真一、福田 敬、下妻 晃二郎
2. 発表標題 EORTC QLQ-C30からEQ-5D-5L indexへのマッピングに対する勾配ブースティング木の適用
3. 学会等名 ISPOR日本部会 第17回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kikawa Y, Kashiwabara K, Taira N, Iwatani T, Shimosuma K, Ohtani S, Yoshinami T, Watanabe J, Kashiwaba M, Watanabe K-i, Kitada M, Sakaguchi K, Tanabe Y, Aihara T, Mukai H, Takahashi M
2. 発表標題 Eribulin versus S-1 as first- or second- line chemotherapy to assess health-related quality of life and overall survival in HER2-negative metastatic breast cancer (RESQ study): a non-inferiority, randomized controlled trial
3. 学会等名 San Antonio Breast Cancer Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀江良樹, 宮路天平, 土井綾子, 川口崇, 小倉孝氏, 兼安貴子, 長島文夫, 中島貴子, 山口拓洋
2. 発表標題 がんの日常診療におけるePROによる症状モニタリングの有用性の評価および、有害事象とQoLの実態に関するレジストリ研究(RegiPRO study)
3. 学会等名 第7回日本がんサポーターブケア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮路天平, 川口崇, 堀江良樹, 土井綾子, 小倉孝氏, 兼安貴子, 采野優, 長島文夫, 下妻晃二郎, 山口拓洋, 中島貴子
2. 発表標題 医師のPRO 調査票とePRO に対する認識と日常診療への導入に関する調査
3. 学会等名 第7回日本がんサポーターブケア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武藤大和、星野絵里、堺琴美、下畑宣行、鈴木光幸、清水俊明
2. 発表標題 胆道閉鎖症における葛西手術の実施時期と自己肝生存の関係：システマティックレビューとメタアナリシス
3. 学会等名 日本小児栄養消化器肝臓学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 兼安貴子、伊藤かおる、中山仁美、下妻 晃二郎
2. 発表標題 糖尿病神経障害に対する薬物療法の費用効果分析のシステマティックレビュー
3. 学会等名 第9回 日本くすりと糖尿病学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaneyasu T, Saito S, Miyazaki K, Suzukamo Y, Naito M, Kawaguchi T, Nakajima TE, Yamaguchi T, Shimozuma K
2. 発表標題 Differences in the conceptual structures perceived by Japanese stakeholders between ''patient-reported outcomes'' and ''quality of life''
3. 学会等名 International Society for Quality of Life Research (ISQOQL) 28th Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 兼安貴子、下妻晃二郎
2. 発表標題 日本におけるがん薬物療法の医療経済評価報告の現状 - 有害事象管理の観点から -
3. 学会等名 第59回 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mo X, Moriwaki K, Morimoto K, Shimozuma K
2. 発表標題 Cost Effectiveness Analysis of Nivolumab Plus Ipilimumab Therapy in Patients with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer in Japan
3. 学会等名 Virtual ISPOR Europe 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakayama H, Moriwaki K, Kaneyasu T, Morimoto K, Shimozuma K
2. 発表標題 Cost-effectives of preventive intervention for prediabetes in Japan
3. 学会等名 Virtual ISPOR Europe 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Maeda T, Morimoto K, Mo X, Moriwaki K, Shimozuma K
2. 発表標題 Economic evaluation of nivolumab plus ipilimumab in advanced renal-cell carcinoma in Japan
3. 学会等名 Virtual ISPOR Europe 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤千佳、青山真帆、升川研人、田中雄 太、五十嵐尚子、下妻晃二郎、宮下光令
2. 発表標題 日本語版FAMCARE Scale (家族の満足度尺度) の遺族 に対する妥当性・信頼性の 検証
3. 学会等名 第25回日本緩和医療 学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎貴久子、錦織達人、田村暢一朗、林 田りか、能登真一、齋藤信也、下妻晃二 郎、鈴鴨よしみ
2. 発表標題 QOL評価研究の実践を通し て生じる課題：質的研究中間報告
3. 学会等名 第8回QOL/PRO研究会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤信也
2. 発表標題 高額医療と医療資源配分における倫理的課題
3. 学会等名 第3回DIA Health Economics and outcomes Research (HEOR)ワークショップ
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 信也 (Shinya Saito) (10335599)	岡山大学・保健学域・教授 (15301)	
研究分担者	森脇 健介 (Kensuke Moriwaki) (10514862)	立命館大学・生命科学部・准教授 (34315)	
研究分担者	白岩 健 (Takeru Shiroiwa) (20583090)	国立保健医療科学院・その他部局等・上席主任研究官 (82602)	
研究分担者	星野 絵里 (Eri Hoshino) (50598521)	立命館大学・総合科学技術研究機構・准教授 (34315)	
研究分担者	兼安 貴子 (Takako Kaneyasu) (90875923)	立命館大学・生命科学部・助教 (34315)	
研究分担者	堺 琴美 (Kotomi Sakai) (30907035)	立命館大学・総合科学技術研究機構・助教 (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------